



岸 高明の市議会だより

岸 高明の会 事務所 茅ヶ崎市新栄町7-1岸ビル6F
自宅 茅ヶ崎市本村4-10-8

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/takaaki-kishi/>

総務常任委員 議会運営委員 議会だより編集委員 議会映像配信検討委員 農業委員



迎春

希望に満ちた
新年を迎えられた
ことと心よりお慶
び申し上げます。

さて、国においては小泉総理に代わり安倍政権が誕生しました。防衛庁が省となる、教育基本法が改正されるなど、戦後61年を経て、憲法改正も議論されるように、社会が変化し時代の節目となっている様です。

また、国と地方の役割分担、市町村合併、道州制導入など、明治以来の地方体制の大幅な改革が議論されています。

いままで以上に市民に身近な所にある地方行政が重要視されています。市長をはじめ市職員、そして、我々市議会議員に一層の能力向上が求められています。

皆様のご声援を頂き市会議員にさせて頂き、早いもので4年が過ぎようとしています。最初の議会では、初日の一番バッターで一般質問という議員として幸運なスタートとなりました。

常に、選挙で託された市民の思いをラン

ドマークに、市民が安心して暮らせる理想のまちづくりを目指して、ある時は、正面からぶつかり問題解決を図り、そして、議論が硬直化していると感じるときは、多面的な視点から問題点を抽出し解決を図るよう心がけてまいりました。

これからも皆様のご意見とご指導を頂き、一所懸命努力いたします。



議会だより

議会だよりは、定例の本会議会毎に年4回発行しています。議会が終わると、私自らがパソコンに向かい原稿を書き、お配りしています。しかし、費用と時間の関係で多くの方にお渡しが出来ません。ホームページでもご覧頂けます。ご要望があればお送り致しますので、ご連絡ください。

都市像～石神古墳

<前置き>

常々議会において、柳島地域における相模川河畔スポーツ公園の移設問題解決と共に、柳島周辺地区の土地利用について議論をしてきた。それは、2010年に相模縦貫道が開通し湘南バイパスと接道予定で、県北部や東名高速から茅ヶ崎海岸まで高速道路で直接アクセス可能となり、観光・産業などの点で進展する可能性があるからである。

状況は異なるが、元町地区は、以前は大規模な工場があったがスポーツ施設や住宅に変わった。鉄道引込み線が市内のいたる所にあったが、現在ではトラック輸送に代われ廃止された。土地利用の過去と現在、そして理想の将来像との隔たりを如何に埋めるかについて議論をしてきた。

<要旨>

今議会では、元町地区の他の面について取り上げた。ひとつは石神古墳である。現在は忘れられた地名であるが、茅ヶ崎駅から東海岸一帯にかけ東石神など石神が付く字名があるなど、石神古墳は地域に根付いていた古墳のようである。石棺長さ9mで県下最大級の古墳である。現在、この古墳を見ることは容易ではない。なぜなら、大正末期の相模線の敷設後、JRの機関区にあり、危険性等から一般には公開されていないのである。

埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として登録さ

れており所有者が勝手に移動等できないが、私の現況確認時には、石が2個重ねられているのみで、古墳を示す標識は無かった。

私は、相模線の車窓から一瞬見えるだけの石棺古墳を、単なる資料公開では無く、郷土愛の観点から地域に密着した展示が出来ないかと要望した。今後も実現に努力したい。



都市像～元町と幸町間に跨線橋

鉄道の敷設の価値は認める。しかし、石神古墳も同様であるが、大正末期の相模線の敷設、機関区の設置により、元町と幸町の行き来には、1Km以上離れた本村地下道かツインウエーブを回らねばならない。昔、神輿が浜に向った道も線路で寸断されている。他の場所では踏み切り間隔は500m間隔位のような。平塚市や藤沢市なども含めて、このように線路により地域が分断されている所は、他に無い。

地域コミュニティーにとって、高齢化社会・ひとに優しいまちづくると考えたとき、交通遮断後80年以上は経つとはいえ、放

置できる問題ではない。時代の変化もある、東京の汐留駅などの例のように高層ビル街となった場所もある。この問題の解決のハードルは極めて高いが、市に要望し、遠い将来像として理解を得た。また、他の新設道路でも、この配慮はするとの回答。



都市像～学区と地域

石神古墳の集落の時代、そして、大正末期の鉄道敷設で元町と幸町に分断された時代など、その歴史的背景により地域社会は変化する。そして、その地域に形成される地域コミュニティは、時代と目的に合わせ、幾重にも重なる半透明フィルムやネットの様なものとする。

本市教育委員会より小学校・中学校の規模の適正化等に関する方針（案）が示された。（平成18年12月4日から平成19年1月5日までパブリックコメント募集中）日本全体としては少子化傾向ながら本市においては、梅田小・香川小・緑が浜小・茅ヶ崎小などで大規模校化が予測され対策が検討され、学区（通学区域）の変更が検討されている。

学校が教育機関としての使命を果たすための方策として、学区を検討すべきと考える。地域と学校の連携は重要である。しかしながら、現状でも地域コミュニティと学区の範囲が一致していない箇所がある。その一致しない隙間で問題が発生する可能性がある。現在、私立の小学校・中学校、県立養護学校、市内4ヶ所の小学校と2ヶ所の中学校に拠点配備された特殊学級などに通う子供達は元々学区とは縁が薄い存在である。また、他市で実施済みである児童・保護者が学区を選べる学区選択性や、安倍総理が提唱する教育利用券を使い学校を選択できるバウチャー制度などは、同じ地域内でもいろいろな学校に通うことになり、現在の学区と地域が一体であるという観念が存在しない。

市長は、ひとつの側面として、地域のより所としての学校の存在価値、防災活動などの連携などを評価していると答弁。また、教育長は、学区選択性の問題点も指摘されている点から、現在、学区選択性は採用しないとの事。しかしながら将来について、学区選択性、バウチャー制度を研究してゆくと回答をしている。

私は、地域コミュニティと学区の隙間は存在するし、その隙間を埋める行政努力なしに、学区選択性・バウチャー制度にスムーズに移行できないのではと考え問題提起できた意味ある議論であった。

相模川河畔スポーツ公園を公認陸上競技場として整備するよう要望してきましたが、平成19年3月には移設先が決定される予定となっています。

工事発注契約締結 上の田公園雨水調整池整備

本村・室田地区では、近年異常気象等による浸水被害が激しく、私も強く対策を要望してまいりましたが、今回、菱沼雨水幹線（千ノ川の上流）の浸水対策として6000立米の雨水を貯留する地下式雨水調整池の7億2870万円の工事契約が締結されました。ポンプ設置・パラペット工事・導水管工事などで総工費11億3100万円、平成21年の完成を予定しています。

下町屋ポンプ場建設工事

鶴嶺八幡宮の近辺の矢畑・浜之郷の一部の浸水対策として、下町屋ポンプ場の機能を向上させるために、現在の下町屋ポンプ場に新たなポンプ場を建設します。地下ピット関係の工事費5億2500万円の契約が締結されました。総工費24億5000万円、平成22年の完成を予定しています。

小児医療の助成児童手当

0から4歳までの小児医療費の助成年齢が、0歳から就学前までに延長されました。

目白押しの重要計画

19年度より3年計画の第4次実施計画がスタートします。本市の20年計画の基本構想と10年計画の後期基本計画は2010年まで。新たな計画作が必要に。

また、相模川スポーツ公園の移設、耐震強度不足の市庁舎・文化会館の建替え、都市計画道路の見直しを検討し始めました。

所得税が下がり 市民税が上がります。

三位一体の改革に伴い、国の所得税の一部が地方に税源移譲されたのに伴い。市税条例が改正されました。

基本的な考え方は、国に納める所得税を減らし、同額の地方税（県民税と市民税）を増やし、地方自治体に回るお金を増やしました。所得税と地方税の合計額は以前と変わっていません。累進税率を変更し、県民税4%、市民税6%の定率です。

損害保険料控除を改組し地震保険料控除が創設されました。一部経過措置があります。

サラリーマンなどの給与所得者やお年寄りなどの年金所得者の場合は、通常、平成19年1月分から所得税額が減少し、平成19年6月分から個人住民税額が増加します。一方、事業を行っている事業所得者の場合は、平成19年6月分から個人住民税額が増加し、平成20年3月の確定申告から所得税額が減少します。

助役は副市長に名称変更。収入役は廃止されます。地方自治法の改正によります。

減免・減税の記載改善

市の決算書に税金の減免・減税についての記載はありません。私が要望した事もあり決算資料で報告されるようになりました。減免・減税は本質的には、政策としての支出と同じ意味を持っており精査しなければなりません。減免・減税で処理されると予算・決算で税収入額減になってしまい不透明になっていたのです。